

【受験者】

部 門：農業部門

科 目：農村地域・資源計画

専 門：土地改良事業計画

筆 記：必須科目Ⅰ：A 選択科目Ⅱ：A 選択科目Ⅲ：A 総合：A

受験歴：1回目

【面接内容】

日 時：令和3年3月1日（月） 試験時間12：00～12：20 ※5分遅れ

場 所：フォーラム8 8階 802号室

面接官：■面接官（50歳代 主な質問を行う）

●面接官（30歳代 主に倫理担当）

※2人とも直接的なコンピテンシーに関する質問はせず、小論文・1枚論文・3枚論文をベースに今後の見通し等を質問する過程でコンピテンシー評価を実施している様子であった。なんとなくそんな感じがしたので、途中からコンピテンシーを意識した回答をするよう心掛けた。

面接官■，面接官●，当方○

■：○○さん，どうぞお入りください。

○：失礼します。受験番号：12\*\*\*\* \*\* ○○○○です。よろしくお願いします。

■：荷物を置いて，そちらに腰かけてください。

○：失礼します。

■：キャベツの大規模農業団地についてプロジェクトリーダーとして携わったと書かれていますが，ステークホルダーにはどんな人がいますか。

○：県・市町・JA・担い手・地権者などかなり多くのステークホルダーがいます。

県では専門性の異なる農業職・農業土木職・一般事務職が連携しています。

■：担い手と地権者は異なるのですか

○：今回のケースのように遊休農地に企業等を誘致する場合には異なりますが，個別生産者や集落法人等の場合には一致する場合もあります。

■：キャベツ16億円産地計画は，現在，取り組んでいる計画ですよね？そうするとまだ結果は出てないわけですね。

○：全体としての計画は進行中ですが，経歴表にも記載したとおり，100ha以上の面積で栽培を開始している担い手も出てきており，一部の地域では既に成果が現れております。現在は，こうした成功事例を横展開すべくさらなる推進をしております。

- ：キャベツ 16 億円産地の実現にはどれくらいの大きさ（面積）が必要なの？
- ：県が作成した生活設計できる経営の確立に必要な収量 5.5 トンがとれた前提で、約 410ha の面積が必要です。
- ：そうですね。だいたいそんなところでしょうね。
- ：だいたいこういう取組は途中でうまくいかなくなることが多く、私もいろいろ見てきましたが、その辺は大丈夫ですか？
- ：担い手にも経営というものがあるので、いつもうまくいくわけではなく、途中で、他の品目を組み合わせたり、土づくりをしたりと、県もフォローアップしながら、全体として最適となるような支援をしています。
- ：どんな問題がありますか？
- ：やはり目標収量に達していない地区があるという問題があります。もちろん達成できている地域もあるのですが、この場合、排水性の改善と土づくりの両面で、期間限定の C F T（組織横断連携プロジェクト）を組織し、リカバリー策を講じています。
- ※コンピテンシー項目：評価・マネジメントを意識
- ：プロジェクトリーダーとして、いろんな人を纏めていくのは大変なのではないですか？みんな好き勝手言ったりしませんか？
- ：私は、専門性や組織風土・文化の異なる複数の職員をマネジメントする立場にありますので、まずは各々の専門性や組織風土・文化を尊重します。
- そのうえで、プロジェクトの目的・全体像を明確にし、各担当の役割とスケジュール全体像の中での各業務の位置付け等を示すことで、点の作業を線として理解してもらうことにより、連携の必要性を示し、各担当の強みができるだけ発揮されるよう、総合調整・ベクトル合わせをおこなっています。
- 特に全体像を示すということで、各々がばらばらに作業しているように見えてもつながっているという意識を植え付けることで、各個人のモチベーションの維持にもつながっていると考えています。
- ※コンピテンシー項目：コミュニケーション・リーダーシップを意識
- ：みなさんそれで施策を理解できていますか？
- ：施策の柱として、県の総合計画があり、これについて、全職員はもちろん、市町等の関係機関にも理解していただいています。この総合計画をベースにさまざま計画があるので、こういった原点に立ち返った説明を丁寧に、しかも各々の組織風土・文化を尊重してあげながらおこなうことで、全体としてのベクトルは維持できていると考えております。
- ：分かりました。それでは、論文で再生可能エネルギー発電の問題を選択されていますが、太陽光発電をこのキャベツ 16 億円産地計画に活用するといったような話はないの？
- ：トマトなどの施設野菜には活用されている事例もありますが、キャベツではいまのところありません。
- ：これだけ環境に優しいとかいろいろ言われているのに、なんでなんだろう？

- ：太陽光発電は立地的にはあまり制限はないと一般的には言われていますが、広島県でも島嶼部や沿岸部ではそうですが、中北部の中山間地域においてはそれほど適地がなく採算性の確保が難しいという点も考えられます。
- ：そうですか……。一方で、太陽光発電は環境には優しくないという意見もあります。これについてはどう思いますか？何が問題なのだろう？
- ：地形条件にもよりますが、森林を伐採するケースや、広島県では切り盛りをして設置しているケースもあります。こういったところが持続可能性の確保という点で、環境に負荷をかけているということではないかと思います。
- ：伐採、そうですね。それだけでですかね？例えば、そこに住んでいた動植物にも影響が出るとかそういうことも考えられるよね。
- ：そうですね。また森林伐採等で流出率が変わって、災害が起きやすくなってしまいうということも考えられます。いずれにしても、想定される影響と事業による効果を比べて最適な計画を策定していくということが、持続性の確保につながると考えます。
- ：論文で鳥獣被害の問題を選択されていますが、キャベツの被害は大丈夫なのですか？
- ：地区界には鳥獣防護柵を設置しています。
- ：やはり防護柵を設置されているのですね。鳥獣被害対策について、将来的にどんな見通しを持っておられますか？
- ：論文にも記載していますが、狩猟等で個体数管理をしながらも、難しいところもあるのである程度の共存を受け入れ、中長期的な視点で持続可能な農山漁村の実現を図っていくことが重要であると考えています。
- ：個体数管理は難しいですか？
- ：いろいろやっていますが、特にイノシシの個体数管理が難しいです。技術士会の農業部会の講演会においても研究成果が発表されていましたが、こうした最新情勢に留意しながら、狩猟者の育成やジビエの活用などさまざまな取組を組み合わせていくことで対応していきたいと考えています。また、すべての農地を活用するわけではないので、使わない農地を緩衝帯として鳥獣被害を緩和するなどの取組もあわせてやっていくことを検討しています。
- ：はい。それでは、これまでこの技術士試験を含めてどのような努力をされてきましたか。
- ：昨年、農業農村工学の技術士を取得しましたが、農業農村工学や農村地域・資源計画の専門知識をベースに幅広い視点が必要だと考えていますので、商工会議所系のビジネスマネジャーやメンタルヘルスマネジメントなど様々なマネジメント系の資格なども取得しました。現在、技術士会の正会員として中国本部の農業部会を中心に技術者倫理研究会や建設部会等にも参加させていただいております。今後は、この大規模農業団地の取組を農業部会の講演会や学会での発表ができるよう業務内容を整理していきたいと考えております。
- ：是非、学会で発表してください。これだけの大きな取組ですから。私からも是非お願いしたい。

- ：技術力の向上にはアウトプットが必要だと考えておりますので、頑張ります。
- ：はい。それでは、○○さん、これで試験は終わりますので、お疲れさまでした。
- ：ありがとうございました。よろしく願いいたします。
- 失礼します。

以上、試験時間は約 20 分程度（正確には 18 分くらい？）でした。※疑問点等あった場合には、最大 10 分まで延長する場合もあるとのことでしたが、延長はありませんでした。

#### 【追 記】

- 10：15                    7階 773 号室前で受験票を提示して受付  
※本人確認・検温・誓約書記入（濃厚接触者ではないこと）
- 10：15～11：45      控室（773 号室）で待機  
※コロナ禍のせいか、控室には 3 名程度の受験者しかいなかった。  
早くから会場入りするのではなく、試験時間の直前に来られる（どこかで時間調整している）受験生が多いような感じを受けた。  
窓が開いていたので、外の景色（道玄坂）を眺めたり、トイレに行く際に 802 号室の場所を確認したりした。  
※昨年は 803 号室が試験室だったので、今回はその隣でした。
- 11：45                    試験開始予定 10 分前に試験室（802 号室）前に移動  
※内部では何か話しているような声がかすかに聞こえてくる
- 11：55                    時間になったがまだ呼ばれない。
- 11：58                    前の受験者が退室  
※いつ呼ばれてもおかしくないのに、緊張感が高まる
- 12：00 頃                入室するように声がかかる
- 12：20 頃                退室

#### 【感想】

論文評価はすべて A 評価だったので、論文について質問は来ないだろうと想定していたが、論文のテーマに関する質問が続くので、少し想定外であった。

しかし、論文の改善点を求める質問というよりは、そのテーマを活用してコンピテンシー項目を確かめようとしている意図が伝わってきたので、回答には、コンピテンシーを意識した内容とするよう心掛けた。

※①コミュニケーション・リーダーシップ ②評価・マネジメント

③技術者倫理 ④継続研鑽

技術者倫理に関する質問が来る頃と予測していた段階で、あっさり終わったので、少し驚いた。予定時間の 20 分程度であり、それまでのやりとりの中で確認できたから、延長する必要もないと判断されたのであろう。